

公開シンポジウム①

温泉街をスポーツで 盛り上げよう!

ー U-18FLCC オープニングサロン

U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ (FLCC) は、toto 助成を受けて NPO 法人サロン 2002 が主催する、高校生年代の全国大会である。「U-18 年代のレベルアップ」と「日常的なリーグ環境の整備」をねらいとするこの大会は、第 3 回大会から長野県千曲市で開催し、2023 年 1 月 7～8 日に第 7 回大会が行われた（資料編参照）。

コロナ禍の厳しい状況にあってもこの大会は「新たな様式」で継続された。U-18 フットサルに取り組む全国の方々と、受け入れる側の千曲市の方々の、熱意と希望にささえられたものである。

いま両者は、コロナ後を見据え、新たな関係を構築する段階にある。U-18 フットサルと千曲市の魅力、コロナ禍でみえてきた現状と課題、今後へ向けての可能性…

夢や希望を語り合う場として企画されたのが本シンポジウムである。



温泉街をスポーツで 盛り上げよう!

—U-18FLCCオープニングサロン

【日 時】2022年11月13日(日) 14:30～17:00 (終了後は懇親会 19:00 すぎまで)

【会 場】千曲市総合観光会館和室コワーキングスペース Gorori およびオンライン (Zoom)

【テーマ】温泉街をスポーツで盛り上げよう!

—U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ オープニングサロン @ 千曲

【スピーカー】

<ビデオメッセージ> 小川修一 (千曲市長)

<登壇者> 岡田昭雄 (前千曲市長) …………… 千曲市の魅力と U-18FLCC
 本多克己 (NPO サロン 2002 副理事長) …………… 第7回 U-18FLCC と地域リーグの現状
 福角有紘 (多摩大学フットサル部監督) …………… 世界とつながる U-18 フットサル
 中塚義実 (NPO サロン 2002 理事長 / 筑波大学附属高校教諭) ※コーディネーター

【会場参加者 24 名】

<地元の方々 16 名>

岡田昭雄 (前千曲市長)、小沼浩栄 (信州千曲観光局)、鍛冶博一 (ゲストハウスなからや)、
 梶義明 (千曲市サッカー協会 埴生少年サッカークラブ代表)、近藤弘之 (信州千曲観光局)、
 清水則子 (昭和の寅や ゲストハウス)、白石茂樹 (ちくま未来新聞 編集長)、関陽平 (ホテル圓山荘 予約センター)、
 タイラーリンチ (亀清旅館)、竹前航太 (戸倉上山田商工会)、永田泰彦 (信州千曲観光局)、
 西澤正太郎 (小石の湯 正明館)、柳ヶ瀬貴一郎 (有田屋旅館 代表取締役社長)、ほか 3 名

<サロン 2002 ファミリー 6 名 ★は NPO 会員>

池田駿介 (山梨大学 3 年 / 筑波大附高卒)、★井上俊彦 (会社員 / 上田市在住)、
 ★中塚義実 (筑波大附属高 / NPO サロン 2002 理事長)、★本郷由希 (会社員)、
 ★本多克己 (株シックス / NPO サロン 2002 副理事長)、皆川宥子 (会社員 / 筑波大附高卒)

<ファミリー外の登壇者・運営スタッフ 2 名>

福角有紘 (多摩大学体育会フットサル部)、常木翔 (会社員 / 筑波大附高卒)

【オンライン参加者 14 名】

<サロン 2002 ファミリー 4 名 ★は NPO 会員>

★小池靖 (一般社会人)、白井久明 (弁護士)、橘和徳 (富山県 U-18 リーグ)、福地修也 (筑波大附高非常勤講師)

<サロン 2002 ファミリー外 10 名>

石井智 (錦城高校フットサル部 / TFA フットサル委員会 2 種・3 種部会)、石井拓道 (徳島県 FA フットサル委員長)、
 金納正善 (福岡県フットサル連盟)、小西鉄平 (日本サッカー協会)、
 碓田直文 (兵庫県フットサル連盟 / 神戸国際大学附属高校フットサル部)、杉水孝広 (熊本県フットサル連盟)、
 今澤絵梨菜 (甲文堂)、土井陽介 (シュライカー大阪 U-18)、
 原陽司 (フウガドールすみだ / TFA フットサル委員会 2 種・3 種部会)、柳りこ (多摩大学 3 年)

< 登壇者プロフィール >

岡田 昭雄（前千曲市長）

1951年長野県千曲市生まれ。1970年更埴市役所に入庁後は主に行政畑を歩む。

2003年9月1日、更埴市・更級郡上山田町・埴科郡戸倉町が合併し千曲市が発足。2009年千曲市役所議会事務局長、2011年総務部長を経て、2012年11月～2020年11月まで2期8年間、千曲市長を務める。

市町村合併後の千曲市のかじ取り役として、スポーツによる地域活性化にも着目。Bリーグの長野ブレイブウォリアーズのホームタウンとして認知度を高めるとともに、U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの千曲市開催を快く受け入れる。

福角 有紘（多摩大学フットサル部監督）

1978年兵庫県生まれ。大社中学校・神戸弘陵学園高校でのサッカー経験を経て、高校卒業後、滋賀のルネス学園でフットサルを始める。奈良のアスパ、ボルドン、大阪のマグ、千葉のプレデター浦安で2008年まで現役選手として活躍。この間、2002年にスペイン・バルセロナFCに3ヶ月のフットサル留学を経験。2000年、2004年のフットサル世界大会の日本代表候補に選ばれる。

2012年4月、多摩大学初の体育会運動部としてフットサル部が創部。監督に招聘され、創部8年目の2020年に全国優勝に導く。多摩大学フットサル部にはU-18FLCC経験者も多い。

本多 克己（株シックス／NPO サロン 2002 副理事長）

1999年に現役最年長サッカーライターの賀川浩と株式会社クラブハウス、2008年に株式会社シックスを設立。国内最大のフットサル大会「ホンダカップ」をはじめとしたサッカー、フットサル事業に取り組む。

神戸アスリートタウンクラブ理事長、兵庫県サッカー協会・フットサル連盟理事、阪神ユナイテッド副理事長、元奈良女子大学非常勤講師。NPO サロン 2002 では、U-18 フットサル、広報などを担当。

中塚 義実（筑波大学附属高校教諭／NPO サロン 2002 理事長）

1961年生まれ。大阪府立三島高校を経て筑波大学体育専門学群、同大学院修士課程修了後、1987年より現職。保健体育科教諭・蹴球部顧問。多摩大学・明星大学で非常勤講師も務める。

日本サッカー協会科学研究委員会（当時）のサブグループ「社・心グループ」の勉強会をルーツに、1997年度よりサロン 2002 の活動を開始。2014年度にNPO法人化。また1996年度からは東京都内でユースサッカー「DUOリーグ」を創設。いまでは全国に広がるユースサッカーリーグの先駆けとなった。U-18年代のフットサル環境整備にも力を注ぐ。日本部活動学会理事、日本ヤタガラス協会副会長など。

著書に『少年のためのサッカー入門』（長岡書店）、『日本のスポーツ界は暴力を克服できるか』（かもがわ書店）、『運動部活動の理論と実践』（大修館書店）など。

< 進行案 >

14:30～14:45	オープニング
14:45～15:30	第1部：U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの魅力ー千曲市の方々へ ・U-18 フットサルのあゆみ（中塚義実） ・第7回U-18FLCCと地域リーグの現状（本多克己&各リーグ） ・世界とつながるU-18 フットサル（福角有紘）
15:30～16:30	第2部：千曲市の魅力ー全国の方々へ ・千曲市の魅力とU-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ（岡田昭雄） ・戸倉上山田温泉における活性化の取り組み（温泉街の皆さん）
16:30～17:00	ディスカッション：温泉街をスポーツで盛り上げるには

オープニング

中塚：皆さんこんにちは。定刻になりました。

U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップという大会を、毎年1月最初の土日に、ことぶきアリーナ千曲にて開催させていただいています。今回はこの大会のオープニングサロンということで、地元の方々はこの会場に、画面の向こうには全国各地のU-18 フットサルリーグ関係者にお集まりいただきました。11月の観光シーズン真っただ中です。シンポジウムの間じゅう、ここにどまることが難しい方もおられるかと思いますが、それぞれのペースでくつろぎながら、そして集中してもらいながら、いまから2時間半を楽しく過ごしたいと思います。

申し遅れました。主催のNPO サロン 2002 理事長の中塚義実と申します。どうぞよろしくお願いたします。

本題に入る前にご協力いただいたいことがあります。今日の会合、そして1月の大会を楽しみにされた方がいっぱいいらっしゃいます。村山吉郎さんもその一人です。長野県サッカー協会フットサル委員長で、この大会が千曲市で開催される道筋を作ってくださった方ですが、その方が9月25日にお亡くなりになりました。村山さんの功績を改めて称え、しのび、一分間の黙とうをお願いします。

ありがとうございます。

千曲市長の小川修一様から、開会あいさつのメッセージ動画をいただいています。

〈以下メッセージ動画より〉

千曲市長の小川修一です。

本日は、第7回U-18フットサルリーグチャンピオンズカップ・オープニングサロン、公開シンポ in 千曲のご開催、まことにおめでとうございます。

U-18フットサルリーグチャンピオンズカップは、第3回大会から千曲市で開催され、第7回となります今年度も、ことぶきアリーナ千曲で盛大に開催されるとお聞きしており、大勢の皆様のお越しを、心よりお待ちしております。

本日のシンポジウムは、コロナ禍を経験したU-18フットサルと千曲市の魅力を語る、そしてフットサルの魅力や、U-18フットサルリーグの現状と今後、千曲市の魅力などが議論されるということで、

私も参加させていただきかけたのですが、他の公務が重なり、参加できないことをお許しください。

皆様の活発な議論を大いに期待しております。

結びに、本日のシンポジウム開催にあたり、ご尽力いただきましたNPO法人サロン2002の皆様をはじめ、関係者の皆様に、敬意と感謝申し上げますとともに、参加される皆様にとって有意義な一日となりますよう、ご祈念を申し上げ、挨拶とさせていただきます。

中塚：ではここから始めていきたいと思います。「温泉街をスポーツで盛り上げよう！」というテーマで、このチラシ(p.33～34)をご覧になって来られた方も多いのではないかと思います。

スピーカーをご紹介させていただきます。

千曲市長の小川修一さんには、ご挨拶いただきました。3名のスピーカーをご紹介いたします。

この大会が千曲市に決まるときに千曲市長として快くお受けくださった岡田昭雄・前市長です。

NPOサロン2002副理事長で、フットサル事業を以前から手掛けてこられた本多克己さんです。今日は神戸からです。

そしてこの大会の協賛団体であり、この大会を経験した高校生の卒業後の受け皿の一つでもある多摩大学フットサル部監督の福角有紘さんです。

会場には戸倉上山田温泉の皆さんがいらっしゃいます。画面の向こうには全国のU-18フットサルリーグ関係者もいらっしゃいます。皆さんがスピーカーです。遠慮なく、感想などを述べていただければと思います。どうぞよろしくお願いたします。

全体の進行案と、そもそもU-18フットサルとは何だろうというところをご案内します。

まずはフットサルとは何か、U-18フットサルチャンピオンズカップとは何かということ、千曲市の方々に知ってもらいたいというのが第1部です。中塚、本多、福角がプレゼンします。千曲市側からも、大会参加チームを受け入れてくださる旅館の方からコメントをいただければと思います。

第2部では逆に、千曲市の魅力、古くからの魅力とともに、コロナ禍で再発見された新たな魅力、新たなアクションを岡田さん、および地元の皆さんから全国に向けて発信していただきます。

最後に全体でディスカッションします。終了後はこの会場で、飲み食いしながらもう少し濃い議論ができればと思っています。

第1部

U-18フットサルリーグ チャンピオンズカップの魅力

— 千曲市の方々へ



1. U-18 フットサルのあゆみ

1) フットサルの誕生と発展

中塚: フットサルって何だろうということ、千曲市の皆さまにご紹介させていただきます。

ひと言でいうと、「小さめのサッカー」です。ではそもそもサッカーとは何か、どのあたりで始まったのかということです。

紀元前の漢の時代にフットボールをやっていた記録がありますが、近代スポーツとしてのサッカーの成立は1863年、イングランドでフットボールアソシエーション (FA) ができたときです。明治維新のころですね。さまざまなフットボールのルールを統一するための議論の中で、「ボールを手で持って走るのはだめ」とか「すねを蹴っ飛ばすのはだめ」ということが決まり、サッカーが生まれます。

あっという間に世界中に広がったのは、このころのイギリスが世界中に植民地を持つ大帝国だったからでしょう。イギリスからヨーロッパ全土へ、そして南米、北米、アジアへと広がっていきました。

そのうち、世界一を決める大会を開こうということになり、国際サッカー連盟 (FIFA) が1904年に創設されます。しかし戦争の影響などで、第1回ワールドカップが開かれたのは1930年のことでした。御存知だとは思いますが、ちょうど20年前、日韓共催のワールドカップが開かれ、私たちはホスト国として世界中から多くの人を受け入れました。

そして今年、1週間後にカタールでワールドカップが開かれます。日本はドイツ、コスタリカ、スペインと同グループです。これらの試合は地上波で見られますが、全試合見たい方は ABEMA 登録が必要です。

次に、フットサルとは何かということです。サッカーは世界中に広まりましたが、公式ルールだけでなく、ボールとゴールと仲間がいれば手軽にできるゲームとして広がります。それぞれの地域でサッカーのミニチュア版を楽しんでいました。それを統括したのが FIFA です。国際オリンピック委員会 (IOC) と並ぶ、世界のスポーツ界の化け物組織ですね。最終的に「フットサル」という名称で FIFA が正式に5対5のミニサッカーを定めたのが1994年です。その少し前から、世界選手権、いまではワールドカップと呼んでいますが、4年に一回やっています。

2020年に予定されていた大会は、コロナ禍で一年延期となり、去年リトアニアで開催されました。実は2020年大会には名古屋も立候補していたのですが、リトアニアに持っていかれてしまいました。日本も本大会に出場し、グループステージを突破したもののラウンド16、ベスト8決めのところでブラジルに負けました、優勝はポルトガルです。

こんな大会があるということです。

「フットサル」の誕生 世界各地に「ミニサッカー」があった

- ◆1989年
第1回FIFAフットサル世界選手権
↓
2004年から名称変更
「FIFAフットサルワールドカップ」



FIFAフットサルワールドカップリトアニア2021
日本2-4ブラジル ベスト16で敗退

- ◆1994年
FIFAが正式に「フットサル」と定める
JFAが「ミニサッカー委員会」を
「フットサル委員会」に変更
- ◆1995年
JFAが、3つの全国大会を開催
・少年の大会 (既存の大会の名称変更)
・U-15 (中学生年代) の大会 (新設)
・大人の大会 (新設)

**U-18 (高校生年代) の大会は
設けられなかった**

2) 日本へのフットサル導入と U-18 年代

中塚: 国内的には、日本サッカー協会 (JFA) のミニサッカー委員会は 1994 年からフットサル委員会に変更し、中塚はこの時から東京都サッカー協会のフットサル委員となっています。95 年度からは JFA 主催の全国大会が始まります。小学生、中学生、大人の大会です、ところが U-18、高校生年代の大会は設けられませんでした。高校サッカーが盛り上がりすぎており、この年代の人たちがサッカーによく似たフットサルに時間を割くことができないことや、高校生の学校スポーツを統括する高体連の人たちが、フットサルにまで手が回らないことなど、理由はいろいろあるのですが、高校生年代は大人の大会に出ればよい、という考えがあったようです。

私は高校の教員をやっているの、高校の中での変化も同時進行でみています。フットサル委員会での議論にも加わります。

ちょうど 20 年ほど前、東京都サッカー協会 (TFA) フットサル委員会で、東京都内のフットサルコートで高校生が大勢プレーしているという話がありました。サッカー部をやめた者、高校ではサッカー部に入らず、中学時代の仲間とボールを蹴りたいという者などいろいろです。そしていくつかの学校でフットサル同好会ができていました。私が務める筑波大学附属高校も同様です。学校におけるフットサルには大きな可能性がある。さらに、高校サッカーの大会で 11 人集まらなくて試合ができないことが生じてきました。11 人は無理でも 5 人ならいけるのではないかと。

ということで、2001 年度から TFA 公認の U-18 フットサル大会が始まりました。これが全国で最初の U-18 大会と言えるでしょう。1964 年の東京オリンピックで「東洋の魔女」が優勝した体育館や、学校の体育館を使って大会を行います。私の勤務校で

は、学校の昼休みを使って「昼休みフットサル大会」をやりはじめました。当時の部員が今日はシンポジウムの運営に来てくれています。

全国的なところでは、大人のフットサルの全国リーグ [F リーグ] が 2007 年にはじまります。プロ選手もいますが、すべてがプロというわけではありません。

東京都の話ですが、U-18 フットサルののはじまりの 10 年間 (2001 ~ 2010) と「次の 10 年間 (2011 ~ 2020)」を振り返ります。最初の 10 年は都内で立ち上げ、育てた 10 年間でした。二つの単発大会と U-18 リーグが、東京でいち早く始まりました。ここから先は横と縦へ広げていこうということ、2011 年度の夏に本多さんとしました。そして年度末に、民間主催ではありますが、世界一のフットサルアリーナと言っても過言ではない名古屋のオーシャンアリーナをお借りして、「U-18 フットサルトーナメント 2012」が開かれます。U-18 年代初の全国大会で、全国から 9 チーム集まりました。長野県からは日本ウェルネス高校松本校が参加、このチームを率いていたのが、冒頭ご紹介した村山吉郎さんです。このころから長野県と U-18 フットサルに力を尽くしてくださいました。

U-18フットサル

「はじまりの10年間(2001~2010)」と、
「次の10年間(2011~2020)」の位置づけ

◆「はじまりの10年(創設期)」は、「都内」で立ち上げ、育てた期間は、


- ①普及目的の夏の大会
- ②競技志向の冬の大会
- ③フットサルリーグ

◆「次の10年」は「横と縦への広がり」を志向する

- ①横への広がり ... 「関東」そして「全国」への拡大
→ 隣県との交流から全国大会の開催へ
- ②縦への広がり ... 「底辺」から「頂点」までの拡大
→ 多様なレベル・ニーズに応じた事業

「東京都におけるU-18フットサル大会10周年記念シンポジウム」資料
2011年2月5日(土) 駒沢陸上競技場会議室

ユース年代のフットサルを
盛り上げよう



U-18フットサル大会創設の経緯(東京都)

それは2000年度末、TFAフットサル委員会の議論から始まった

- ◆「都内の民間フットサル施設で、高校生が大勢プレーしている」
→ 潜在的なフットサル人口の存在
- ◆「いくつかの学校ではフットサル同好会ができています」
 - ・筑波大学附属高校サッカー部に「フットサル部門」創設(1997)
 - ・同校において校内フットサル大会(TFC杯)開始(1998)
 → 学校におけるフットサルの可能性 → 仕掛ければ広まる！
- ◆「高体連のサッカー大会で、
人数不足により参加できないチームが増えてきた」
→ 11人は無理でも5人ならサッカーとの共存・共栄

★2001年度事業として、夏にU-18フットサル大会を開催しよう！
★「東京都ユース(U-18)サッカーリーグ(仮称)」と運動させよう！

サッカーキングカップ

U-18フットサルトーナメント2012

2012年3月24日～25日 於オーシャンアリーナ
主催：株式会社フロムワン、株式会社シックス

優勝	名古屋オーシャンズU-18(愛知県)
準優勝	作陽高校(岡山県)
第3位	松山工業高校(愛媛県)
第4位	国学院久我山高校(東京都)
第5位	京都橘高校(京都府)
第6位	VAINFC(徳島U-18)北海道
第7位	A.C.アスーリ(宮城県)
第8位	熊本県U-18フットサル選抜(熊本県)
第9位	日本ウェルネス高校松本校(長野県)



その翌年も同じ会場で、日本フットサル連盟 (JFF) 主催で開かれました。そして次へつなげるために、公開シンポジウム「U-18 フットサルを語ろう！」をサロン 2002 主催で開きました。これがきっかけとなって「ユースフットサル選抜トーナメント」が始まります。JFF 主催です。残念ながら 2018 年以降は開催できていませんが、今年度、兵庫県フットサル連盟の主催で再開する動きがあるようです。

単独チームの競技会は、JFA 主催「全日本ユース (U-18) フットサル大会」の名称で 2014 年から行われています。2020 年はコロナで中止になりましたが、その後も毎年夏にやっています。今年度は三重県開催で、東京都のペスカドーラ町田と石川県の優雅館高校がともに優勝。決勝戦を前に、片方のチームからコロナ感染者が出たので決勝ができなくなったための措置です。



GAViC CUP ユースフットサル選抜トーナメント
 2012年に「U-18フットサルトーナメント」として創設。
 2015年からは名称を変更し、一般財団法人日本フットサル連盟主催、サロン2002共催（2017年まで）で、全国9地域から選抜された12チームで開催。**2018年度以後は開催なし。**
2023年3月に兵庫県フットサル連盟主催で、選抜大会を開催準備中。

2012年 名古屋オーシャンズU-18(愛知) / オーシャンアリーナ
 2013年 瀬戸内高校 (広島) / オーシャンアリーナ
 2014年 霧張総合高校 (千葉) / 駒沢体育館
 2015年 愛知県選抜U-18 / 墨田区総合体育館
 2016年 U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
 2017年 U-18新潟県選抜 / 墨田区総合体育館
 2018年 U-18神奈川県選抜/和歌山ビッグホエール



全日本ユース(U-18)フットサル大会 第9回大会:コロナ感染の影響で決勝戦が行えず、両チーム優勝
 日本サッカー協会主催の大会として全国9地域で予選を開催。U-18年代の単独チームNo.1決定戦。高校サッカー部が多数出場。

2014年 聖和学園FC (宮城) / 大田区総合体育館、墨田区総合体育館
 2015年 岡山県作陽高校 (岡山) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 2016年 帝京長岡高等学校 (新潟) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 2017年 矢板中央高等学校 (栃木) / ゼビオアリーナ、仙台市体育館
 2018年 帝京長岡高等学校 (新潟) / ゼビオアリーナ、カメイアリーナ仙台
 2019年 ペスカドーラ町田U-18 (東京) / 浜松アリーナ
 2020年 **中止**
 2021年 京都共栄学園高校(京都)/京都市体育館
 2022年 ペスカドーラ町田U-18 (東京)・遊学館高校 (石川) / 三重県サオリナ
※年/優勝チーム/会場

3) リーグ戦の推進と、リーグチャンピオンズカップ創設

中塚: U-18 の公式大会はできてきましたが、生活の中にフットサルを位置づけるためには、地域ごとのリーグ戦が不可欠です。そのきっかけとして、リーグチャンピオンが集まる大会を、サッカーくじ (toto) の助成金を受けて始めたのが U-18 フットサ



- 第1回 2017年 1月6日(土)、7日(日) エコパアリーナ (静岡県) 8チーム
優勝: **HeroFC U18F (静岡県)**
- 第2回 2018年 1月6日(土)、7日(日) 武田テバオーシャンアリーナ (愛知県) 12チーム
優勝: **SANTOS FC18 (愛知県)**
- 第3回 2019年 1月5日(土)、6日(日) ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 12チーム
優勝: **京都橘高等学校 (京都府)**
- 第4回 2020年 1月4日(土)、5日(日) ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 16チーム
優勝: **シュライカー大阪 U-18 (大阪府)**
- 第5回 2021年 1月9日(土)、10日(日) ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 16チーム
優勝: **ペスカドーラ町田U-18 (東京都)**
- 第6回 2022年 1月8日(土)、9日(日) ことぶきアリーナ千曲 (長野県) 16チーム
優勝: **フウガドールすみだファルコンズ (東京都)**

ルリーグチャンピオンズカップ (FLCC) です。NPO 法人化したサロン 2002 が主催です。

第 1 回は 2017 年 1 月、静岡のエコパアリーナで、第 2 回は 2018 年 1 月に武田テバオーシャンアリーナ。そして第 3 回からことぶきアリーナ千曲で開催し、出場チーム数もいまでは 16 チームとなっています。

千曲で開かれた大会の優勝チームは上記のとおりです。第 3 回が京都橘高校。サッカー部ですね。第 4 回はシュライカー大阪。F リーグの下部組織で、大阪のチームの初優勝です。U-18 フットサルに早くから取り組む東京や神奈川はなかなか優勝に届かなかったのですが、第 5 回でペスカドーラ町田、第 6 回でフウガドールすみだ、いずれも東京都の F リーグ下部組織が連覇しています。

第 4 回大会は、千曲市が水害で大変なことになった直後の大会でした。地元の皆様からアドバイスをいただき、まずは武水別神社に参拝します。武田信玄も上杉謙信もともにお参りしたと言われる神社です。ここで皆さんの健康と安全、大会の無事開催をお祈りしたのち、コロナ前ですので、対面の代表者会議に臨みます。そして本日お越しの岡田さんにキックオフセレモニーをやっていただきました。見事ゴールイン! (次頁右上スライド)

去年の第 6 回大会は、16 チームのノックアウト方式です、負ければ終わりですが、1 回戦で負けたところももう 1 試合はできるようにしています。

チームやスタッフの宿舎は、上山田温泉で手配してくださっています。

去年とおととしはコロナ禍での無観客開催でした。保護者の方など、会場を訪れたいし、試合の様子を知りたい方も大勢おられます。そこでことぶきアリーナ千曲から、映像を配信することを試みました。通信環境に問題があり、なかなかうまくいかず、カ



**第6回
U-18フットサルリーグ
チャンピオンズカップ
2022年1月8～9日
長野県千曲市**

主催：NPO法人サロン2002
主管：長野県フットサル連盟
**万全の対策を施して開催。
「Withコロナ」の新たなすがた！**

トーナメント表

ZOTT WASEDA JUVENIL (東京 1)	4	PK5-3	4	5	フウガドールすみだファルコンズ (東京 2)	5
東海大学付属静岡翔洋高校フットサル部 (静岡 2)	4		4	1	エンフレンテ熊本 (熊本)	2
FFC エストレラ川口 U-18 (埼玉)	5		3	9	ポアルス長野 U-18 (長野)	2
gatt2008 U-18 (京都)	1		4	0-8	メッセ天下茶屋 FC U-18 (大阪)	5
湘南ベルマーレフットサルクラブ ロンドリーナ U-18 (神奈川 2)	4		3	5	武相高校 (神奈川 1)	5
北星学園大学附属高校 (北海道)	1		0	3	不二越工業高校 (富山 2)	2
名古屋オーシャンズ U-18 (愛知)	6	PK5-6	5	2	アグレミーナ浜松 U-18 (静岡 1)	5
VIENTO U-18 (富山 1)	2		2	1	デウソン神戸 U-18 (兵庫)	7

コロナの影響で無観客試合となったため、試合映像の配信を実施。
2021年はzoom、2022年はYouTubeで配信。

決勝は多摩大学フットサル部の福角有弘監督が解説。

クカクの映像になってしまうのが難点です。

千曲市のほうで、ことぶきアリーナの Wi-Fi 環境を整えていただくか、LAN 使用を認めていただければ大きく改善すると思います。よろしくお願いします。

決勝戦は、今日もお越しの多摩大学フットサル部監督の福角さんが解説してくださいました。フットサルに関わる人にはすごく良い教材になったと思います。

今年度の第 7 回大会は 1 月 7 日 (土) ~ 8 日 (日) に、ことぶきアリーナ千曲で予定しております。

ではここから、全国各地のリーグ状況と今年度の大会について、本多さんに紹介してもらいたいと思います。

2. 第 7 回 U-18FLCC と地域リーグの現状 (本多克己)

本多: この大会を目標に全国 18 地域で U-18 リーグが整備され、その数はさらに増えようとしています。残念ながらコロナ禍で、宮城、福井、和歌山、徳島では開催に至りませんでした。今大会には残る 14 リーグー北海道、福島、埼玉、東京、神奈川、静岡、愛知、富山、長野、京都、大阪、兵庫、福岡、熊本ーから 16 チームが出場し、ノックアウト方式でチャンピオンを決めます。今年度新たに組織されたのが徳島と福岡です。今大会に出場する地域について、北から順に紹介していきます。本日オンラインで参加されている方に、ところどころ補足していただきます。

◆北海道 … 出場回数：3 回目。

最高成績：ベスト 4

去年と一昨年はコロナの影響で参加ができなかったが、今年は参加

第 4 回大会で北星学園大学附属高校がベスト 4 進出

◆宮城県 … 出場回数：初出場、

最高成績：準優勝 (東北として)

第 4 回大会で、サッカーの強豪校でフットサルもやっていた聖和学園高校が準優勝した。

以前は東北リーグとしての参加だったので、今回は初出場となる。

◆福島県 … 出場回数：初出場、

最高成績：-

こちらも東北枠で第 5 回大会に INNOVATION FC U-18 が出場したが、福島県としては初出場

◆埼玉県 … 出場回数：3 回目、

最高成績：ベスト 8

第 6 回大会でエストレーラ川口 U-18 がベスト 8 の成績を残した。

◆東京都 … 出場回数：7 回目、

最高成績：優勝 (2 回)

7 大会すべてに出場し、第 5 回のペスカドーラ町田、第 6 回のフウガドールすみだと、東京のチームが連覇している。

本多: いまオンラインで、フウガドールすみだの原さんがご参加いただいていると思うのでコメントをお願いします。

原: いま東京都墨田区のフットサルアリーナで、TFA 主催の東京都女子ユースフェスティバルという大会運営をしています。片付けをしているところなのでばたばたしています。お話も半分ぐらいしか聞いていません。ちょうど大会が終わりまして、今度は都リーグ (社会人) の試合が同じ会場で開かれます。この会場のロビーでシンポジウムのライブ中継を流しているのですが、大会参加者の中に、以前この大会に出ていた選手がいたこともあって、非常に感慨深く思いました。

この大会は真の日本一を決める大会で、みながり上がって参加しています。フウガとしても目標にしている良い大会だと思います。

◆神奈川県 … 出場回数：7 回目、

最高成績：準優勝

激戦区神奈川県も全大会に出場。第 1 回大会で PSTC ロンドリーナが準優勝して以降、ベスト 4 止まりではあるが、毎年強豪チームを出している。

◆静岡県 … 出場回数：7 回目、

最高成績：優勝

第 1 回大会は静岡で開催し、その大会で

地元の Hero FC U-18F が優勝。
全大会に出場し、U-18 フットサルの盛んな地域といえる。

◆**愛知県** … 出場回数：7 回目、
最高成績：優勝
全大会に出場。第 2 回大会は名古屋の武田テバオーシャンアリーナでの開催で、地元の SANTOS FC U-18 が優勝。ブラジル人がいたり、国際色豊かでとても自由な印象のチームであった。

◆**富山県** … 出場回数：7 回目、
最高成績：ベスト 4
全大会に出場。第 1 回では龍谷富山高校がベスト 4 に入った。

本多：今日は富山県から橘先生が参加されています。

橘：私は龍谷富山を率いていたわけではありませんが、富山県で U-18 フットサルの運営をさせていただいております。富山県はフットサルをすることに関して、フットサル独自のチームがあるわけではないのですが、高校生年代の冬場のトレーニングにフットサルをということでスタートしました。やるごとに仲間が増え、審判の資格を取った人もいます。今年度も 30 名ほどの高校生がフットサル審判の資格を取得し、リーグ戦に臨み、この大会を目指しています。モチベーションアップにつながっています。県をまたいでの交流も行われています。

◆**長野県** … 出場回数：7 回目、
最高成績：1 次ラウンド
第 1 回から日本ウェルネス高校が出場するが、勝利には結びつかない。前回大会はポアールズが出場。

◆**京都府** … 出場回数：6 回目、
最高成績：優勝
京都橘高校サッカー一部が出場して優勝したのが、千曲市で最初に開催された第 3 回大会。印象的な大会であった。

◆**大阪府** … 出場回数：7 回目、
最高成績：優勝

全大会に出場し、第 4 回大会でシュライカー大阪が優勝。

本多：シュライカー大阪の土井さんが来られています。

土井：大阪ではまだまだ U-18 リーグに参加するチーム数が少なく、高校生はサッカーをやるお子さんが多いのでフットサルチームが増えない状況がここ何年か続いています。全国大会があるということモチベーションにしてトレーニングに励んでいます。このような大会があるということは非常に助かるし、いろいろなチームとつながることができます。この大会を機に練習試合を組めたり、また来年も参加させていただきたいと思っています。

◆**兵庫県** … 出場回数：7 回目、
最高成績：1 次ラウンド
第 1 回大会から全大会に出場。

本多：神戸国際高校の碓田先生が来られています。

碓田：神戸国際高校は第 1 回大会から参加させていただいてますが、大阪府と同じで、高校生年代はサッカーが中心で、なかなかフットサルのチームが増えてきません。コロナの関係で活動ができなくなったチームもいます。この大会はフットサルチームにとって目標にしたい大会です。長野で開催された大会には第 4 回、第 5 回と参加していますが、第 5 回はコロナ禍の最初の年で、すごくびくびくしながら行きました。宿泊先で対策をしっかりしていただき、温泉も気持ちよく入り、試合に負けた後も温泉でしっかりリフレッシュして次の日に臨むことができました。残念ながら今年うちのチームは出場できませんが、何とか兵庫のチームが 1 勝してくれたらよいなと思います。

◆**徳島県** … 出場回数：初出場、
最高成績：なし

本多：今年度から U-18 リーグを立ち上げたということです。ただしコロナの状況があって、リーグ開催が難しく、本大会への出場も難しいかもしれないとのこと。石井さん、一言お願いします。

石井：はじめまして。徳島県サッカー協会フットサル

委員長とフットサル連盟理事長を兼任しています石井と申します。この大会はずっと見ており、ぜひとも参加させていただきたいと思っていました。しかし徳島県単体では、フットサル専門のチームがないので、サッカー部が出てくれるかどうかといったこととなります。単独ではなかなか難しく、隣の香川県とタッグを組んで東四国という形でリーグを編成していたのですが、コロナの影響で県をまたぐ活動が難しく、開催できていない状況です。ただ、アンダー世代の交流を図りたいので、今後は参加できるよう活動していきます。

◆福岡県 … 出場回数：初出場、
最高成績：なし

本多：今回初出場の福岡県からは金納さんが参加されています。

金納：福岡県フットサル連盟理事長の金納です。今大会初めて参加させていただくことを喜んでます。これをきっかけに、フットサルのU-18年代人口が増えてくれたらなと考えています。もっと盛り

上がってほしく、初出場でもよい成績が残せるよう願っております。

◆熊本県 … 出場回数：6 回目、
最高成績：1 次ラウンド

本多：コロナで前大会は出場できませんでしたが、第1回から続けて出場されています。杉水さんが参加されています。

杉水：熊本県でU-18年代を担当しております杉水と申します。熊本県では今年は6チームでリーグを行っています。前期後期で分けており、前期優勝チームがこの大会に出場する形です。後期が始まるタイミングで、新たに2チームから3チーム、高校が参加したいと表明をしています。人数が少ない高校があるので、そういったところが参加してくれています。今回も11月26日に前期最終節があり、エンフレンテと国府高校が優勝争いをするのではないかと考えています。どちらにしても、代表になったチームが少しでも上の順位に行けるよう、こちらでも応援していますのでよろしく願いいたします。

参加リーグランキング

優勝：5、準優勝：3、ベスト4：2、ベスト8：1で算出

順位	リーグ	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計
1	東京	2	4	3	2	8	7	26
2	神奈川	3		2	3	3	2	13
3	静岡	5	2	1		2	2	12
4	愛知		7	1			3	11
5	大阪	1		2	5	1	1	10
6	京都		1	5	1			7
7	東北				3	1		4
8	北海道			1	2			3
8	富山	2	1					3
10	埼玉					1	1	2
10	兵庫	1	1					2
10	熊本	1		1				2
13	長野	1						1
14	和歌山							0

本多：ここまでの6大会の成績を簡単にまとめ、リーグのランキングを作っています。1位東京、2位神奈川、3位静岡、4位愛知と、上位は優勝経験のある地域が並びます。長野がまだ13番目なので、今後は地元チームの活躍も期待しております。

全国から長野を目指して来ていただく形になりますので地元の皆さんにも歓迎していただければと思います。

中塚：ここまでU-18フットサルの全体像と、この大会に向けて各地域で行われるリーグの話をいたしました。ここまでで何かあればご質問お受けします。もしくは補足等ありますか。大丈夫ですか。

会場の方々には、後ほどこちらから指名させていただきますのでコメントをお願いいたします。

では福角さんから「世界とつながるU-18フットサル」の話をさせていただきます。この大会を経験した高校生たちが次にどんなところにつながっていくのかという話です。

3. 世界とつながるU-18フットサル (福角有紘)

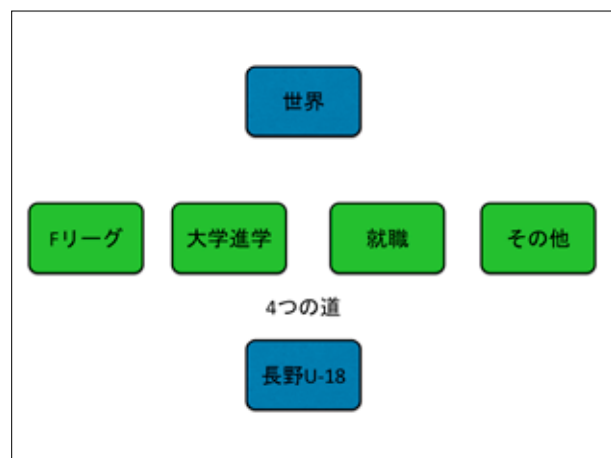
福角：東京の多摩大学から来ました。私自身もこの大会の視察に何度も来ています。大会に参加した高校生が、その後どのような道に進んでいるのか。千曲市で開催されているこの大会と世界がどのようにつながっているのか。フットサルというスポーツが世界とどのようにつながっているかを話させていただきます。

まずはどのような選択肢があるのか。そこからどのような道に進むのかについてです。大きく分けて4つあるのかなと思いました。

一番左はFリーグという、フットサルのセミプロリーグという道で、ほとんどの選手は仕事をしながらトレーニングをして戦っています。まだまだ発展途上のリーグです。次に大学進学。教育を受けながらフットサルを続けます。また、普通に就職する人もいるし、自分の道を歩む人もいます。

4つの道がある中で、左の二つがどのようにつながっていくのかを見ていきます。

フットサルというスポーツの国内最高峰は日本代表です。サッカーでワールドカップがあるのと同じように、フットサルにもワールドカップがあり、日本代表があります。千曲の大会に参加した高校やクラブチームから日本代表になった選手がいます。Fリーグのペスカドーラ町田の原田快(こころ)選手は、世界的に有名なFCバルセロナ、サッカーで有名なメッシがいたサッカークラブのフットサル部門ですが、バルセロナのBチームに18歳で所属し、向こうでデビューして点も取っています。彼がいたgatt(ガット)という京都のクラブは、U-18FLCC



にも参加しています。

上のスライドの右側は、大学進学を選んだ石田健太郎選手です。新潟県の帝京長岡高校サッカー部から多摩大学に来てくれた選手です。多摩大学からバルドラル浦安というFリーグのクラブに所属しています。二人が通ってきた道は異なりますが、二人とも、先月アジアチャンピオンになった日本代表のメンバーとして出場しています(次頁右上写真)。

千曲市のU18FLCCに出場経験のある、千曲市の

方々がサポートしてくださったチームや選手が日本代表にはたくさんいます。お世話になったクラブの選手が、アジア優勝した日本代表の中にどれくらいいるかという、ほぼ全員です(右中写真)。すごいことですよね。皆さんが直接かかわったクラブの選手がこれだけいるのです。U-18FLCCに出た選手も多いです。日本サッカー協会関係者で視察に来てくれた人もいます。するとほとんど全員です。監督の木暮さんもそうですよね。皆さんがサポートしてくれた選手、スタッフの方々が、アジアチャンピオンとなった日本代表を構成している。このように世界とつながっているのです。

Fリーグに行った者が多いのですが、大学を選択した場合、どのような可能性があるのでしょうか。高校でやったあと大学進学をした場合、送り出す側からすると「大学でフットサルをするメリットは何か」と問われるわけです。

多摩大学は2019、2020、2021と大学フットサル日本一、3連覇をさせていただきました。日本一を取ったあとに何かあるかというと、それで終わってゴールになってしまふ。そこからどうなるのか。

次のプロジェクトとして、私を含め数人で進めているものがあります。それは大学フットサル日本選抜をしっかりと作り、世界大会出場を目指すプロジェクトです。大学年代のフットサル大会、ユニバーシアードを目指しましょうということです。

今年の7月にポルトガルで開催されたユニバーシアードの視察に、個人的に行ってきました。世界中から来た大学年代のチームを町ぐるみで迎え入れ、オープニングパレードをやっているところ(次頁右上写真)。サッカーではブラジルが世界トップレベルですがフットサルも同じで、ブラジル



は男女とも参加していました。女子は開催国のポルトガルが優勝しました。すごいチームワークでした。

次回は2024年にアルゼンチンで開催することになっていましたが辞退してしまい、いま開催国は未定です。そこにアジアのリーダーとなって世界に挑戦するという目標を持っています。

このように、アジアと日本のフットサルの発展・強化、大学フットサルの普及・発展・強化、若い人材の活躍の場を広げ、A代表へ人材を繋げることを目指しています。競争社会ではありませんが、マインドとしていまあるものに感謝し、謙虚な姿勢をもって日本の良さを表したい。よい心を持ち、よいチームになって参加したい。戦える集団であり、品格ある個人の集団でありたいと思っています。ラグビーW杯の日本代表を参考にしています。

そして今回、日本代表がアジアチャンピオンになったので、大学のほうでも最終的には世界一という結果がついてくればよいと思います。それが夢であり、何より若い人たちの経験が財産になります。スポーツを通して、日本だけでなく世界に出ていく経験をしてもらい、それを財産にし、さまざまな人とコミュニケーションをとってもらえたらなと願います。このあたりはチーム作りにもかかわるところであり、しっかりと基礎を固めて視野を広げていきたいと考える次第です。

ファーストステップとして、2年後の世界大会に出ることを目標に掲げ、動き出しています。目先の勝利、ただ勝つためにやるのではなく、持続していく意味や全員のつながり、喜びを共有できるようなチームを目指しています。それが大学に進学した人たちが世界に出ていく流れになります。

最初に見てもらった四つの選択肢の右二つ、就職する人やその他の人は、今度はスポーツをささえる立場やスポーツをみて楽しむ人になっていきます。千曲市でささえてくださったU-18FLCCに出た選手たちが、横のつながりを持ちながら世界につながっていく。こういうことが、長野県千曲市とフットサルと世界のつながりなのかなと思います。

この大会に参加した人たちはこのような可能性を秘めています。2年後に世界大会。大学に進学したとしても、このような経験ができるのではないかと



2022 ポルトガルのブラガで開催



世界トップクラスのブラジル代表（男女で出場）

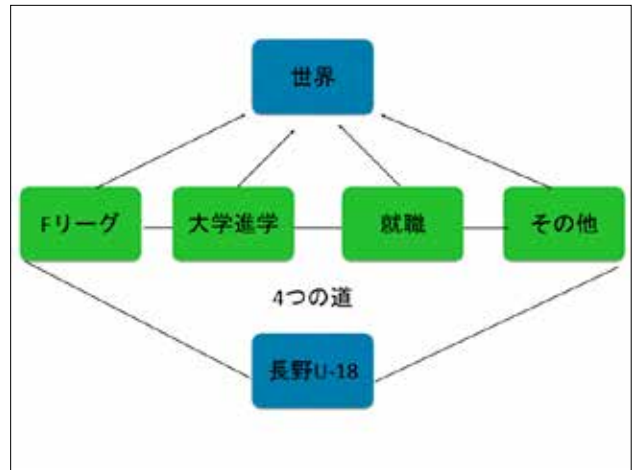
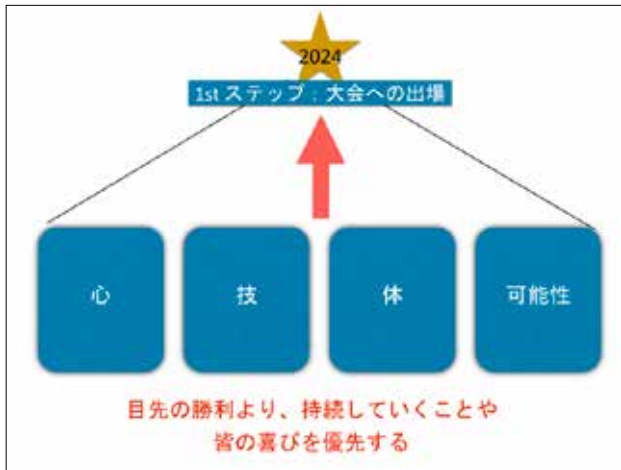


女子はポルトガルが優勝！

思います。

これが、私が感じる大学フットサルの可能性です。ご清聴ありがとうございました。

中塚：千曲市の皆さんが支えてくださる大会に出場するU-18年代の若者が世界につながっていく話をいただきました。



4. ディスカッション① 千曲市と U-18FLCC

中塚：話を聞きながら、会場では参加された皆さまのお名前と属性を書いてもらっています。このリストを参考にしながらご指名させていただきますので、コメントをいただければと思います。

戸倉上山田商工会の竹前さん、続いて千曲市サッカー協会の梶さん、いかがでしょうか。

竹前：コロナ禍というか、僕の私的なイメージになってしまいましたが、11人のサッカーができないけど5人のフットサルならできるといった考え方が、素敵で合理的だと感じました。どのように土壌を作っていけるのかが課題なのかと感じました。

梶：千曲市サッカー協会から参加しています。子どもたちのサッカーチームのコーチをしながら普段はつるの湯に務めています。小学校のサッカー状況ですが、長野県では冬場はグラウンドが凍ってしまうので体育館で練習をします。するとフットサルのようなものになるので、フットサルは子どもたちには近い存在です。そのあとはサッカーもフットサルもやりながら中学に行きます。中学ではサッカー部が減ってきており、自分たちでフットサルチームを作ってやっている人もいます。中学校も1、2年すると中体連の関係で部活がなくなり、クラブチームでやりなさいということになり、そのあと高校に行ってもどうするかがいまの課題です。高校になってから始めるよりも、小学生ぐらいからやってきたほうが良いのだと思います。人数が少なくなっても5人制のフットサルはできます。ラグビーでも7人制があります。サッカーだと小学生は8人制です

が、その人数も集まらないのが現状なので、5人のフットサルで何とかチームを作って参加しているところもあります。これからはフットサルもしっかりやっていきたいと考えます。

中塚：神戸国際高校から、「負けた後の温泉がすごく良かった」という話がありました。旅館の方からも感想をお願いします。

柳ヶ瀬：有田屋旅館の柳ヶ瀬です。今回で千曲市開催は5回目ということですが、ここまで大きな大会であり、各地でリーグが行われ、歴史があるということ初めて見させていただきました。千曲市にはたくさんのスポーツ施設があり、さまざまな宿泊を受け入れてきましたが、世界を目指していくような子どもたちが千曲市に集まり、大会を通じて千曲市と関わっていただけているのはうれしいです。温泉を覚えてもらい、大会が終わった後でも、いろいろなところに住んでいる方が千曲市のことを思い出して来てくれるようなおもてなしをさせていただきたいと思っております。サッカーを続けて、チームメイトと、今度は観光で帰ってきてくれることが理想ですし、世界に出た方が世界の友だちを連れて千曲市に来て、温泉良かったねと思ってもらいたいですね。来年の大会ではお迎えできるようにしています。千曲市でお待ちしております。

中塚：選手だけでなく私たち運営側も、千曲市を毎年訪問するうちに少しずつ土地勘ができてきました。旅館もいろんなところを利用させていただき、昨晩は「小石の湯 正明館」にお世話になりました。そちらの若旦那が来られているのでコメントをいただけますか。



西澤：私は旅館業に従事していないのですが…。スポーツをすることは体を使うことだと思います。この温泉地を利用して疲れを癒していただくことに力添えができることをうれしく思います。ただ先ほど見せていただいたポルトガルの世界大会のように、町中に人があふれかえり、大会の表彰式にもお金がかかっているように見えたので、ビジネスとしてももう少し変化して、強いポテンシャルが発揮されれば、

ビジネスとして大きいものになるチャンスがあるのかなと思います。町を挙げてこの大会も含め、いろいろところでバックアップできればよいなと思っております。

中塚：ありがとうございます。では千曲市に焦点を当てて、第二部につないでいきたいと思います。ちょうど岡田さんが、話をされるポジションにおられます。



第2部

千曲市の魅力

ー 全国の方々へ



1. 千曲市の魅力と U-18 フットサルリーグ チャンピオンズカップ (岡田昭雄)

1) 千曲市の概要

岡田：岡田でございます。今日このような機会を作ってくださったサロン 2002 の皆さん、そして本日のスタッフの皆さんにお礼を申し上げます。

まず千曲市を紹介します。千曲市は、長野市の南に位置する人口 5 万 8 千人、面積は 119.8km² の小さな都市です。

②の長野県全体スライドの中に、ピンク色の地域がありますが、これは千曲市を含む人口 50 万人をこえる「長野広域連合」の区域です。中でも千曲市は、スライドの右上の通り、高速道路が 2 本、新幹線、国道、県道など主要な交通網が集中するまちでもあります。

そしてこの長野地域には、プロスポーツが 5 団体あります。サッカー J3 の「長野パルセイロ」、野球の「グランセローズ」、バスケの「信州ブレイブウォリアーズ」、フットサルの「ボアルズ」、バレーボールの「長野ガロンス」。これだけのチームがあり、そのほかにもプロレスが一つありますので、それを含めるとプロスポーツは 6 団体になり、長野県でプロ



スポーツが最も盛んな地域でもあります。

2) 千曲市とバスケットボールとフットサル

2020 年に B1 に昇格したプロバスケットボールの「信州ブレイブウォリアーズ」は、2011 の bj リーグ参入からはじまります。当時は、小さな地方都市でプロのバスケットボールチームを抱えていくことができるのか心配もありましたが、bj リーグの中野社長からは当時「小さな町でもプロを育てる、しっかりと収益を上げて地域に貢献できるものをつくりたい」との熱い気持ちが表明され、以来、市としても財政面を含めた様々な支援を行ってきました。お陰様でウォリアーズは、B2 で 2 回連続地区優勝。うち 1 回は B2 を制覇するなど市民の間でも盛り上がりを見せ、B1 昇格への期待が膨らむと同時に、昇格条件の 5,000 人収容のアリーナの確保が課題となりました。当時 5,000 人規模の体育館の建設費は 60 億～70 億が必要であり、人口 5 万 8 千人の、合併して間もない千曲市としては極めて厳しい条件であり、結果的に 5,000 人規模の体育館はあきらめざるを得ませんでした。

しかし、B1 昇格をあきらめたわけではありません。お隣の長野市には、5000 人を超えるホワイ



トリング（長野冬季オリンピックのフィギュアスケート会場）があり、フットサルの「ボアルース長野」のホームタウンとして活用されていました。このため、B1 昇格には、ホワイトリングをホームアリーナとする以外に道はなかったことから、私自身、当時の加藤長野市長と懇談。何としてもホワイトリングをウォリアーズのホームアリーナにしてほしい旨、お願いしてまいりました。お陰様で、ホームアリーナとして利用されていた「ボアルース長野」さんにも深いご理解をいただき、ウォリアーズのB1 昇格条件をクリアすることができました。非常にうれしかったですね。

一方、ホワイトリングは通常でも利用度が高いため、ボアルースの試合とウォリアーズの試合を全てホワイトリングで開催することは困難なことから、「ボアルース長野」の試合を千曲市の「ことぶきアリーナ」に一部移転することで全体調整をすることになりました。「ことぶきアリーナ千曲」は、2018年に完成。収容人員 3020 人の冷暖房完備のアリーナです。以来、U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップの会場としては 2019 年 1 月の第 3 回大会から使っていただいています。

こうしてフットサルとの出会いが始まりました。当初は、あまりなじみのないスポーツでありましたが、最近ではフットサルもだいたい認知度も上がってきており、フットサルとバスケの二つのプロス



ポーツが千曲市にあることは、大変うれしいことです。これからもそれぞれ支援していかなければと思います。

なお、⑩のスライドは、ボアルース長野の U-18 がはじめて参加した「第 6 回 U-18 リーグチャンピオンズカップ」の様子です。

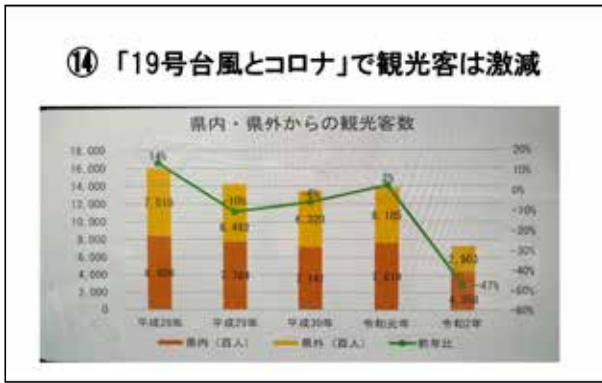
3) 台風 19 号の襲来

順調だと思った千曲市ですが、2019 年の台風 19 号では大きな被害を受けました。被害の要因は、千曲川の堤防の一部が切れている「霞堤」から、増水した濁流が市街地に流れ込んだことで、床上床下合わせて 1,677 棟が浸水する大きな被害に見舞われました。

千曲川の水位は、最高水位である 5.2m を 1.2 m 上回る 6.4m まで上昇。逆流しながら市街地に流れ込み、あっという間に市街地に水が入ってしまいました。

過去においてこれほどの被害はありませんでしたが、近年の気候変動からして、常日ごろから災害への十分な備えが必要だと思います。今回の災害で国土交通省は「霞堤」から水が逆流しないよう「霞堤」を囲って水をためる巨大な「遊水池」を整備することにしており、計画では 2024 年度にも完成させることにしています。





4) コロナ禍の観光客減少と新たな試み

千曲市には、開湯 120 年を超える歴史ある県下最大規模の「戸倉上山田温泉」があり、県内外からの観光客は、平成 28 年度は 75 万人でありましたが、令和 2 年度には、災害やコロナもあって 29 万人まで激減。観光関係の方々は極めて厳しい状況に陥り、極限まで追い詰められたと思います。

2020 年 4 月 17 日の新聞には、千曲市は県下市町村に先駆けて、独自に旅館業に 50 万円から 100 万円の支援をしたことが報道されるなど、コロナ対策で市が独自に行った施策は数多くあります。その後、国や県からも様々な支援がなされ、今は少しずつ回復傾向にあります。



今日もこの会場に沢山の方がお見えになっていますが、コロナ禍の中で、市民や観光局の皆さんによる取り組みが、過去にないほど活発になっています。一部を紹介しますと、スライド⑯のようにワークショップをはじめ、いろいろな分野のイベントが開催されています。市民の方々を中心に自分の地域を何とかしようということでも立ち上がった結果であり、本当にありがたいことです。改めて、活力あるまちづくりは、千曲市に住む住民や千曲市で働く方々など、広く市民の力の結集であり、その取り組みの素晴らしさと市民力を感じた次第であります。

このほかにも産業振興面では、千曲市の交通網

を生かした様々な事業がようやく具体的な展開をみせ始めました。⑰のスライドの写真上部のように、14.4ha の「雨宮産業団地」では、マルチテナント型の大型物流施設や、大手半導体メーカーの 5 万 7000㎡ の 6 階建ての工場が建設中です。また、真ん中の写真は、屋代地区の「広域交流拠点」として上信越道にスマートインターを整備し、一帯の 35ha を開発する計画も進んでいます。一番下の写真は「八幡東産業団地」ですが、建設機械のレンタル会社が長野県内の統括工場を建設中であり、約 10ha の土地をいま造成中です。このように、千曲市の交通便利性を生かした企業の進出はこれからも続きますが、これらは、災害やコロナ禍で疲弊した地域経済の活性化にも大きく貢献するものと思っています。

また、スライド左側の地図にあるのは、いまご紹介したそれぞれの産業団地や戸倉上山田温泉など市内の観光地を結ぶ道路を造ろうという計画であり、「千曲市産業連携道路のネットワーク」として構想されています。



また、文化の分野では 2020 年 6 月には、日本を代表する月見の名所である千曲市の「姨捨山に照る月 田毎の月」が「月の都千曲」として「日本遺産」に認定されました。

江戸時代の浮世絵師、歌川広重の浮世絵には、全ての田んぼに映る月影を一枚の浮世絵に表した、まか不思議な「田毎の月」を描いています。



また、「姨捨」という地名からお婆さんを山に捨てるといった伝説が描かれた浮世絵もありますが、実際にはお婆さんを捨てたと事実はありません。月見にちなんだ遊び心、あるいは伝統行事として、プロの知恵を大切にするというような教えを物語にした結果ではないかと言われています。全国で100数ヶ所ある日本遺産ですが、そのうちの1ヶ所に登録されたことは、今後の観光振興にも大変良い影響を与えるものと期待しています。

以上、私から千曲市の概要等についてお話しをさせていただきました。この後の議論で続きを報告させていただきますと思います。

中塚:ありがとうございました。U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップが千曲市で始まった経緯には、フットサルの前にバスケットボールとの関係があったということ。千曲市の特徴を踏まえ、そのときどきの行政的なご判断をされたこと。ところが台風19号の水害とコロナに見舞われ、直面する危機の中で、いま行政がどのような動きをされているのかをお話いただきました。新しい取り組みについては、またのちほどご紹介いただきます。

2. 千曲市の魅力と U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ (会場の方々)

中塚:今日はこちらの会場に、千曲市役所観光課の方や信州千曲観光局の方が来られています。観光との絡みの中で、フットサルへの期待のようなことがあればコメントいただければと思います。小沼さん、いかがでしょうか。

小沼:改めましてこちらでの開催、本当にありがとうございます。思い返すと2年前ですか、コロナの全盛期にあたり、大会の開催をどうしようと言っていたときにやっていただき、本当にありがたかったです。

申し遅れました。信州千曲観光局の小沼と申します。信州千曲観光局がどういう組織かという、このエリアで人の流れを生みながら、ここで消費を上げる仕組みを作る役割を担う組織です。

今回スポーツを取り上げ、観光とスポーツをリンクさせるというのはスポーツツーリズムの考え方です。千曲市内にあるいろんなスポーツ環境を外向けに発信し、スポーツの合宿や大会を誘致し、かつこちらのエ



リアで消費してもらうような取り組みをさせていただいています。

トップチームの、プロチームの皆さんにこのエリアに来ていただき、若い世代がそういったものに実際に触れてみることで、「やってみたい」となり、このエリアのスポーツ振興にもつなげていきたいと考えています。

いまの組織で取り組んでいるのは、いまここにある環境をどれだけ活かすか、また環境をどのような仕様にしていけばいろいろなスポーツのニーズに対応し、順応できるものになるのかということ、市と協議しながら進めているところです。いま総合運動公園の計画があり、多種多様なスポーツができるものを市内で整えているところです。

今日のテーマでもありますが、身近に温泉があるスポーツ施設はあまりないと思うんですね。温泉の部分もしっかり活かしながら、推進していきたいと思います。参加された高校生の皆さんには、なかなか入れない温泉地だし、温泉地での大会開催はなかなかないのですごく喜ばれたと聞いています。ぜひそういったものを継続したいなと思います。

ここにおられるタイラーさんは、サイクリングをすごく推進しておられます。ここにはいろんなスポーツのニーズに対応できる環境が整っています。私は

いま 50 肩で膝も痛く、温泉療養中です。これが治った暁には携わっていきたいと思っています。

いずれにしても、これから千曲市内でいろんな部分で環境が整っていきまじ、受け入れ態勢等もできていきます。ぜひフットサルの皆様には継続して千曲市をご利用いただけたらと思います。

中塚：ありがとうございます。いま名前が出ましたので、亀清旅館のタイラーさんからコメントをいただけますか。

タイラー：コロナ禍でいろんな大会が実施できなくなった状況でも、U-18 フットサル大会は開催していただき、フットサルで皆さんが来てくれてうれしいです。だいたいお正月はすごく忙しいんです。三日が明けて静かになったところで皆さんの大会があるので、とても「おいしい」です(笑)。

うちは小さくて昔ながらの宿なんです。少しずつグレードアップしつつ、学生さんが温泉を楽しんで、いい思い出をつくってくれればと思います。大人になって、家族で温泉に行こうかとなったときに、「上山田温泉、いいところだったな」と思い出してもらえればいいですね。子どもたちが楽しめる空間を残し、また行きたいと思ってもらえるような空間を作っていきたいと思っています。

こちらからお聞きしたいのは、ことぶきアリーナ自体は、皆さんの大会にとってもっとこうしてほしいとか、町にこうなってほしいとかの希望があれば、できる範囲で協力し合って応えたいなと思っています

す。よろしくお願ひします。

中塚：この質問は「待ってました」ですね。先ほどのスライドで少し紹介させてもらいましたが、ことぶきアリーナは本当に使い勝手のいいアリーナです。しかしコロナ禍で、保護者や関係者など、試合を見たい人が入場できなくなってしまいました。そこで動画配信をやっているのですが、困ったことがあります。ここから先はテクニカルな話になるので、筑波大学附属高校 OB で山梨大学 3 年生の池田君にご説明いただきたいと思います。いつも動画配信を担ってくれているのですが、毎回苦勞していることを話してもらえますか。

池田：苦勞していることの一番は、電波の部分です。配信する以上、Wi-Fi かインターネット回線が必要になってくるのですが、あそこの建物は Wi-Fi 環境がとても弱い状況です。そこで自分たちでポケット Wi-Fi のようなものを用意するのですが、あのエリアが 4G 回線で、普通の携帯の電波もそれほどよい場所ではありません。だから Zoom でスムーズに配信できず、コマ送り映像のようになってしまう状況です。Wi-Fi を通していただけると、綺麗で滑らかな映像を全国の保護者や関係者にお届けできます。くれぐれもお願ひします。

中塚：わかりやすい説明をありがとうございます。ぜひよろしくお願ひします。

そろそろ全体でのディスカッションに移りたいと思います。今回のシンポジウムのメインテーマが「温泉街をスポーツで盛り上げよう！」です。先ほどの岡田さんの話の中でも、新しい試み、兆しが千曲市で見えてきている話がありました。岡田さんから続きの話をしていただき、そのあとで皆さんから補足していただく形にしましょうか。

3. 千曲市のこれからー温泉街を活性化するために (岡田昭雄)

岡田：では私の方から、これから温泉街を活性化していくために何が必要なのかという部分に触れたいと思います。これまで観光というと、どちらかといえば市町村のそれぞれ個別の仕事になっていたような傾向がありました。自分の市は宣伝しますが、隣の



市や町や村の宣伝はあまりしないんですね。そうしますと、来られたお客様は一つの自治体の中しか知らない。一歩外に出たらもっと違ういろんな体験ができるかもしれません。観光は市町村の予算で進めるので仕方のないことかもしれませんが、これからは、各市町村がいかに連携するか。このことが極めて大切だと思います。一つの市町村だと観光資源に限度があります。しかし、各市町村が連携すれば、観光資源は一気に増えます。自治体は観光資源のPRにも大きなお金を使っていますが、連携してまとまった集中投資ができれば、もっと広範囲で効果的な観光PRができるんじゃないかと思います。

一つの例を紹介します。千曲市の周辺自治体化の話です。東御市には「湯の丸高原スポーツ施設」、通称「GMOアスリートパーク」があります。これは、全国に2つか3つしかない高地トレーニングセンターの一つです。水泳の瀬戸大也選手をはじめ著名なアスリートがここでトレーニングをしています。写真のようなプールや400メートルトラック、ランニングコース、アスリート向けの食堂まで揃っています。素晴らしい施設です。今は、水泳や陸上の高地トレーニングとして活用されていますが、これから様々なスポーツ選手の高地トレーニング場として活用されるものと思われます。

次は上田市の菅平高原です。ここにはラグビー場が何と108面もあります。すごい規模ですよ、学生の合宿もありますし大会もあります。まさにラグビー王国がこの場所にあります。多くの大会が開催され、年間相当数の学生さんが訪れます。

次は白馬スキー場です。オーストラリアの方々を中心に、外国からの旅行者が劇的に伸びた場所です。スキーシーズンには本当に宿泊が困難な状況も見受けられます。こうしたスポーツ施設や観光地を持つ自治体が千曲市の周辺には幾つかあります。

千曲市と東御市、上田市、白馬村との位置関係は、スライド23に示したとおり、地図中の①②③④のあたりとなります。

こうした地域は、交通の利便性が高い千曲市から、いずれも、車で約50キロ圏内にあり、移動距離や移動時間が短いことから、信州最大規模で泉質抜群の戸倉上山田温泉は「アスリートの受入温泉」になりえると思っています。東御市や上田市、白馬村などと連携して「温泉療法」や「アスリート食」などの導入により「滞在型のアスリート温泉スパ」のようなイメージで、戦略的に関係地域と広域連携を進めるこ



とで温泉街の活性化にも生かしていけるのではないかと思います。

つまり、戸倉上山田温泉のイメージとして定着している「善光寺精進落としの湯」に、新たに「滞在型のアスリート温泉スパ」のイメージを加えることで、長野地域のプロスポーツ選手とそのファンの皆さんや公式戦におけるアウェーチームの宿泊先、あるいは合宿先として、「心と体を癒すスパ温泉」として、

全国初の「アスリート温泉街」になればと期待しています。

そして、スポーツ選手など著名人がこの温泉に来ていただくことで、彼らが戸倉上山田温泉のインフルエンサーとなってPRし、広めていってもらえれば最高ではないかと思えます。

以前この温泉街には、芸者さんが400人以上もいた時代がありました。それだけ大きな温泉街だったんですね。残念ながら、今はほとんどおられない状況です。そういう状況の中で、温泉街も時代とともに変わっていかねばなりません。これからは温泉街が、スポーツとどのように連携しながらやっていけるのか皆で考えていけたらと思います。この地域には5つのプロスポーツがあるのですから、プロスポーツとの繋がりも含め、広域連携をしていければ良いと思います。

いま全国には3,000弱の温泉街があるといわれています。特色ある温泉街でなくては生き残れません。今日のシンポジウムもそうですが、千曲市ではいま、市民の活動が盛んになってきています。地域全体が、多くのお客様を受け入れようという雰囲気が大分整ってきているように思います。こうした条件を整え、市民とともに全国に誇れる温泉街の形成を目指していくことができれば素晴らしいと思っています。以上、私からの一つの問題提起とさせていただきますが、よろしくお願ひします。



中塚: ありがとうございます。「滞在型のアスリート温泉スパ」というのはよいイメージですね。「善光寺精進落としの湯」というのはすでにいろんなところで聞いてきましたが、岡田さんの話をお聞きして、こういうのがあると、若い人たちも呼び込みやすくなるだろうなと感じました。

4. ディスカッション②

温泉街を活性化するために

1) ゲストハウスの取り組み

中塚: 千曲市で新しい動きがみられるという話の中で、タイラーさんや清水さんの名前が出てきました。ここで「昭和の寅や」の清水さんの取り組みをご紹介します。ただければと思います。

今年8月の終わりごろ、U-18FLCCとシンポジウムの下準備で本多さんと私でこちらを訪ね、いろいろ話をさせていただきました。コロナ禍でいろいろなことが変わる中で、温泉街も変わっていかなくてはというお話しでした。働き方改革が進み、都市部ではオフィスに毎日行かなくてもよいスタイルになりつつあります。オフィスにいなくても、どこでも仕事ができるのなら、地方でくつろぎながら仕事するのもありだろうという発想なのでしょう。千曲市が積極的に「ワーケーション」を受け入れていることをお聞きしました。

そんな話をしていたら、「近くで面白いことやってる人がいるよ」ということを観光局の近藤さんに教えてもらい、打ち合わせ後に早速「昭和の寅や」を訪ね、そこで2時間ぐらい清水節を聞かせてもらいました。非常に面白かったですね。ここでもぜひお聞かせください。

清水: 中央公園の向こう側で「昭和の寅や」をやっている清水と申します。寅さんが大好きで35年になります。寅さんのあたたかい世界を見たいと言い続け、ゲストハウス「なからや」さんに会って、なからやさんのご支援のもとで寅やができました。私は本当にどうしようもない人間で、無一文で子ども2人育てて派遣で仕事してただけでした。そんな私がなぜあの場所に来られて、あの場所でゲストハウスができるようになったかと言いますと、皆さんの力なんです。千曲市の職員の方のあたたかい力もあるんですが、ここに通ってお仕事されている方や、ここで出会った方、それら皆さんのおかげです。なからやさんやタイラーさん。何だろう、あたたかい方に囲まれています。

私はもともと長野市生まれなんですけど、なぜ千曲市に来ようと思ったのか。あたたかい人たちのささえ。大きからず、小さからず、すぐに繋がれるそんな場所。だから「おいで」って言われました。けど、来てみたはいいけどお金が1円もない。でもど

うしても寅さんのあったかい世界が見たい。そして、先ほど話が出ました「ワーケーション」で来られる方々と出会います。寅さんでいうインテリ。頭のいい人たち。IT事業の部長さんだったり建築家の方だったり、広報のPR担当の方もいらっしゃいます。私がワーケーションの会に参加したことで、今まで会ったことのない方に出会いました。その方たちに、「寅さんの世界、あたたかい世界を温泉街に作りたいたいんだ」ってことを言い続けましたら、なんとそれができ上がってしまったという話なんです。だから私が作ったんじゃないくて、千曲市の方、千曲市に来られた方、通ってらっしゃる方が作ってくださったんです。だからこそ私はあそこを倒しちゃいけないと思ってがんばってるんです。

千曲市に来て一番思ったことは、温泉もあたたかい人もあたたかいということです。私は「おせっかいゲストハウス」をやっているのですが、他の人がおせっかいです。「これ食べたか？」とか。野菜は来るし。タイラーさんなんかしょっちゅう顔を出してくださるし。「のりさーん」と呼ばれば、うれしいなんてもんじゃないですよ。あとは先ほど言った有田屋の女将さんなんか、「寅ちゃ〜ん」と呼んでくれるんです。なんてうれしいんだろうと思ってます。正明館のおかみさんなんか、旅館でもない私に「おかみの会に入らないか」と言ってくれるんです。うれしかったですね。おかみの会って朝市であるんですが、当番で行ったら、何のスポーツかわかんないですが、スポーツで合宿に来た子たちが朝走ってるんです。その子たちにもものすごく元気もらったんです。私たちはここで野菜とか羊羹を売っていると、みんなすごい勢いで「おはようございます」と言ってくれるんです。お金がないから買ってはいかないけど、元気をもらいます。私からも「がんばれよ。どこから来たんだ？」と、そんな会話になるんですよ。会話から元気をもらうことで、スポーツっていいなって思いますね。そこに付いて来てくださる監督さん。先生方ですかね、とてもあたたかいんです。ここから来ました、バス何台で来ました、何時間かかりました…。話を聞いてたら、こうまでして千曲市に来てくださっていることが本当にうれしくて。こんな会話ができるのも、おかみの会が受け入れてくれた、千曲市の方が私を受け入れてくれたことで、うれしいことにつながったんだなと。

寅さんは義理人情の人なんです。寅さんに会いたくてみんな訪ねて来るんですね。何が返せるかと言ったら、この御恩を返すしかありません。今度は、来てくださる方をあたたかく受け入れることが恩返しになるんだろうと。

今日も朝から、ラグビー合宿でお子さんが千曲に来られた方のお父さんが、お1人で泊まれたんです。その方一人だけだったんですけど。ゲストハウスって話をする機会があるので、いろいろ聞いてみました。「何でここに来られたんですか」って。すると「せがれがラグビーやってます。その応援に来ました」って言って。「じゃあどうしてここに来たんですか」って聞いたら、「正直知らなかったです。でも千曲市ってどこなんだろうと思ってナビをたどってきて、温泉街があるんだということを知って、だったら1人で温泉街でリラックスしてゆっくりしてこうと思って来たんですよ」なんて話をして。「どうしても息子のラグビーが見たいから応援に来た。今日はそのまま帰るけど、いつか温泉街にまた息子連れて来たいなあなんて思いましたよ」。そんなことを言ってくれました。

そっか、スポーツをやるのではなくて、親御さんは一緒にくっついてきて温泉を楽しむ。どこか宿を取りたいときに、上山田温泉を思い出してもらえた



らと。やっぱりこういうご縁ってすごく大切なんだなと思うと同時に、人と人が繋がるって、ちょっとしたことなんだろうけど、スポーツで繋がれることはとても大切だなって、今日改めて思いました。

ここから世界に羽ばたいてるなんて、本当に自慢げに話しますよ。ここから世界に行ってる人がいる。本当に自慢の千曲市なんで。ぜひみんなに来てほしい。私が千曲市を選んだ理由、それは人だったの、みんなに会いに来てほしい。葛飾柴又の寅さんに会いに来るように。いろんな旅館の方だったり飲食店だったり市の方だったり、みんなと一緒に。

これが私たちの力になっています。私は千曲市にいたことがとても幸せです。

中塚：ありがとうございます。今朝、道路でばったりお会いしたときは、その方と一緒に「路地裏ファンタスティック」に行っておられたところだったんですね。

清水：そうです。行ってみようということになって。

中塚：向こうから「おーい」と呼ばれましたね(笑)。
なからやさんからコメントをいただければと思います。

鍛冶 (なからや)：お客さんとの距離が近い宿をやっています。お客さんと一緒にものを考えて、いいなと思ったことを取り入れながら立ち上げた宿です。岡田さんの、フットサルで街を盛り上げようという話をお聞きして、本当にいいことだなと思っています。フットサルの支援のようなことが千曲市でできればと思います。千曲を目指す、ことぶきアリーナを目指すことに、何か合言葉ができたらいいですね。そういうことで千曲市が、温泉街が盛り上がる。千曲市のいいところもよく見ていただいて、どんどん来てもらえるようになったらいいなと思っています。

自分には「姨捨」というのがありました。そこを盛り上げるのもあって、いまの場所を選びました。来てくれた人と一緒にものごとを考えて、何かいろんなことができるんじゃないか。まち作りって、本当はいろんなことができるんじゃないか。フットサルをきっかけにして来てくれた人たちと、あれがしたい、これがしたいということが一緒にできたらいい



なって思います。

今回いろんな話を聞いて、このようにすれば面白い、市民の応援のし甲斐がありますし、さらにそれが世界に広まっていったらもっと面白いことになるんじゃないかと考えました。

2) 千曲市外の方々から

中塚：千曲市の話を全国の方にオンラインで聞いてもらったので、全国の方からもコメントをいただきたいと思っています。質問や感想、あるいは千曲市の補正などをいただければ…。こちらから無茶ぶりですが、今澤絵梨菜さん、聞こえてますか？実は今回のシンポジウムの案内チラシ。甲文堂という文京区の印刷業者に頼みました。NPO サロン 2002 の広報誌を印刷してもらってる業者さんですが、その担当者が上山田温泉出身なんです。今度こんなシンポジウムやるんでぜひチラシのデザインを考えてくれませんかとお願しました。東京在住の上山田温泉出身者として、いかがでしょうか。

今澤：年に2回、帰省のたびに温泉に入らせてもらい、やっぱり温泉は気持ちいいなと思うのと、スポーツで疲れた体を癒せる場所としても、上山田温泉は良いなと思います。温泉を活用してもらえるのがすぐ

くいいなと思ったので、このままぜひ U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップで皆様には使っていただきたいなと思いました。

中塚：無茶ぶりに対してコメントいただき感謝しております。ほかにどうでしょうか。オンライン参加のリーグ関係者だけでなく、サロン 2002 の方でも。もちろんこちらにいらっしゃる方でも…。

ではサロンファミリーで上田市在住の井上俊彦さんが運営側でいろいろやってくれています。私の出身高校のサッカー部の後輩です。大阪の高校です。首都圏で働いていましたが、ワーケーションでなく、20 年ぐらい前に上田市に移住してこられました。

井上：千曲市との関係で言いますと、東京から移住してきて子どもが小学校 3 年生になったときにサッカーのコーチをはじめました。大会も千曲市で行われることが多くて、立派な千曲市サッカー場によく来ていました。上田市にこういうグラウンドがあったらいいなというような施設です。聞くとところによると総工費 2 億円ぐらいで、ちゃんと観客席もあ

る人工芝のグラウンドで、夏は下から水、ミストが出て、人工芝が熱くならないよう配慮されています。スポーツの環境がすごくいいなと思っていました。よくこの道路を通って千曲に来ていました。中塚さんの高校の後輩なんですが、サロン 2002 でやっている U-18 リーグチャンピオンズカップが千曲市でやるようになって、何かお手伝いできればなと思って今日ここに来ています。

長野県って観光資源がすごく豊富で、各自治体には温泉が、掘ったら出てくるという感じですね。その中でも伝統のあるこういう温泉街がコロナやその他の事情で元気がなくなっていくのは非常に残念だなと思っていました。いかに若い人に来てもらえるかだと思うんですね。高校生や大学生、私のころの大学生のレジャーはみんなスキーでしたけど、いまはあまり行かないようですが、そういうノリで温泉があるから行ってみようかという感じで賑わってくれればいいなと思います。

また 1 月の大会でもサポートしますのでよろしくをお願いします。



3) 前夜祭の可能性—スケジュール問題と合わせて

中塚：ありがとうございます。残り 20 分ぐらいです。メインテーマとしての「温泉街をスポーツで盛り上げよう」について、いろんなアイデアや可能性が出てきたと思います。オンラインでもこの場におられる方でも、コメントください。はい、どうぞ。

鍛冶：すいません、質問です。1 チーム何人ぐらいで来られるのでしょうか。

本多：そうですね。選手 20 名、関係者を合わせると 25 名ぐらいで、それに保護者の応援の方という規模です。この 2 年間はコロナで応援の方に制限がかかっていますが、やはり家族の皆さんは来場したいという希望を持っておられるようです。

タイラー：受け入れる旅館として、何か前夜祭的な演出とかサービスとかの可能性はありますか。

中塚：大会日程とも関係してくるかもしれません。いろんな要素があって、ことぶきアリーナをいつ押さえられるのかというのが一つあって、それによって何チーム受け入れられるか、そこからチャンピオンを決めるにはどういう大会形式にすればいいのかという話になって、具体的なスケジュールが出てくるわけです。いまは土日開催でスケジュール的にキツキツですね。

本多：試合日程的にはキツキツですが、例えば前日入りして顔合わせなど、何かができれば選手にとってうれしいですね。そういうことも地元の方と一緒に進めることができればいいですね。

中塚：それはあった方がいいですね。ただ、先ほども言いましたけど、どの時期にできるかということもあるんです。タイラーさんがおっしゃったのは、年末年始の一番の盛り上がりから一段落ついたタイミングでこの大会があるとありがたい。確かにそのとおりですが、参加する高校生の側から考えると、この時期にリーグチャンピオンを決めるのが至難の技なんです。9、10、11、12 月にリーグ戦をやっていくスケジュールになるわけで、特に、サッカーもフットサルも両方やってるような高校生にとっては 11 月ごろにサッカーの大きな大会の予選がある時期なので、フットサルの試合消化がなかなか進まな



い。福角さん、フットサルのスケジュールとも関係しますが、もしご意見あれば。

福角：リーグ戦に左右されるのであれば、毎年度の結果じゃなくて、ある程度地域で絞ってという方法もありますね。何チーム出るとかについては地域ごとに割り振って、全国の地域から出てくるような形というのも一つの方法ですね。

前夜祭があるのはすごくいいと思います。

タイラー：それは各チームが交流できるような。例えば、温泉宿には舞台があります。例えば、そこで太鼓の演奏をするとか。

福角：先ほどのプレゼンで大学の世界大会を紹介しましたが、ポルトガルのブラガという町であったユニバーシアードでは、その文化を前夜祭というか、1 日使って広場に集まり、各国がそれぞれの個性を出し合ってお披露目する場がありました。

こういう視点を加えると、視野が広がっていくと思います。次は日本だけじゃなくてオーストラリアから、ニュージーランドからもチームを呼びまじょうみたいに、海外枠を入れていくと、国際交流の場所になるのではないのでしょうか。日本の温泉という文化を世界の人に紹介する。すごく幸福度が上がるんじゃないかと感じます。リーグ戦とつながっていくことに加えて、イベントして大きな大会としてやっていくとはめやすいのではないかと思います。

す。参加選手全員でお祭りをして交流していくのはおもしろいと思います。

4) スポーツを通しての交流—人のつながり

中塚：いまの話で思い出しましたが、トリムカップというレディースフットサルの地域選抜大会を日本フットサル連盟が主催しています。日本トリムという整水器の会社が大阪にあり、その社長は高知県出身の方です。地元へ貢献したい、何かできないかという話になり、高知県サッカー協会主催で関西圏のレディースフットサル大会を始めました。いまでは高知を離れて各地域持ち回りの選抜大会になっています。

高知県は日本の端の方にあるので、全国から集まってくるのは大変です。最初のうちは西日本のいろんなところに声をかけ、派遣してもいいよと言ってくれるところから来てもらう招待大会でした。私も立ち上げのころから数回関わりました。

始まったころは、いまおっしゃったような前夜祭からスタートしました。大会前日の夕方に高知入りしてもらい、ホールに集まってチーム紹介。高知の文化の紹介や、冠スポンサーの日本トリムからの整水器の宣伝もあります。綺麗な水を飲むことにより美容と健康への効果など、女性に関心を持ちそうなプレゼンです。前夜祭の後、選手についてきてくれた関係者は、高知の夜を楽しみます。そして翌日から大会。そういうのを何回かやっていますが、これに近いかもしれませんね。

本多：今日の午前中、「路地裏ファンタスティック」に出かけてみました。高校生が自分たちでやってるのはすごくいいことだと思いました。U-18FLCCは高校生の大会なので、地元の高校生たちが、例えば音楽やダンスや、そういうもので歓迎して応援して一緒に交流していくみたいなことができると素晴らしいんじゃないかなという気がします。

タイラー：それとの関係ですが、大会で来るチームはものすごく真面目に「大会、大会」と考えて、余計なことは考えないという感じなのか。それともせっかくこれだけ集まっているのだから交流もしたいと考えているのか、どうなのでしょう。



中塚：監督の交流会は、大会初日の夜に企画していました。コロナ禍のいまはちょっとできませんが。それに参加してくれる監督と、やっぱり大会だからと参加できない方とおられます。ストイックに勝利を目指してということだけでなく、未成年を引率する立場として、宿に選手を置いたまま懇親会に行っているのかという、職務遂行の使命感とのバランスがあるのでしょうか。それでも10人ぐらいは集まりましたね。またやりたいですね。

本多：指導者の立場としてどうですか？

福角：スポーツを通して得るもの、獲得できるものがあると思うんです。監督として、勝利を目指すだけじゃないと思うんです。それが文化だったり、人との繋がりだったり、仲間だったりというのが。それがスポーツを通して得るもので、そっちの方が、人生を長く考えた時、より幸福度が高い気がしています。大会前にそういったイベントがセットとして組み込まれ、目的の中にも、勝つことだけでなく交流というものがはまっているといいのかなと思います。

監督としては、大会が始まれば勝つことに集中しますが、オープニングイベントでは仲間との交流があって、そこから大会が始まってONになる。終わったらノーサイドという流れ。このようなゆたかなスポーツが子どもたちに伝えられ、指導者もそのようなマインドを持つことがよいのだということが伝えられると思います。

本郷：日程的には難しいかもしれませんが、試合後、大

会後にそういうのができるとよいかもしれません。ラグビーの試合では、対戦した両チームが試合後にアフターマッチ・ファンクションをやりますよね。試合中ガチガチにやり合った対戦相手と、試合後に飲み食いしながら交流しあうような場があるとよいなと思いました。

中塚：サロン 2002 理事の本郷さんでした。大会でも動画配信スタッフとして力を注いでくれます。同じくサロン 2002 で運営に携わっている常木さん。ラグビーの話が出ましたが、大学でアメリカンフットボールをやっていた常木さんもそのような経験がありますか？

常木：中塚先生の教え子で、高校までサッカーをずっとやっていて、大学ではアメリカンフットボールを始めました。アメフトの場合、相手を徹底的にスカウティングして、相手のことはすごくよく知っているけど、対戦相手と学生時代にしゃべったことはありません。それが、大学を終えて社会に出て、対戦相手と再会すると、大学時代にしゃべったことがなかったのにメチャクチャ仲が良くなります。同世代だけでなく、ずっと上の先輩ともつながってきます。学生時代にやり合った仲間とは、いまでもつながっています。スポーツのつながりは、中長期で考えるとすごく価値のあるものです。U-18 の大会に出た高校生たちが、つながりが生まれたことを認知できると、彼らにとって大きな力になると思います。大会の目的の一つに交流が設けられるとよいのではと

思いました。

中塚：皆川さんからもコメントをいただきたいと思います。サロン 2002 でシンポジウムの運営をしている皆川さんも筑波大学附属高校の卒業生で、高校の時にノルウェーのリレハンメル、冬のオリンピックやったところですが、そこで開かれた国際ピエール・ド・クーベルタンユースフォーラムに日本代表として参加しています。2年に一度、世界中の高校生が100人ぐらい集まって、オリンピズムを学びながら交流する機会です。リレハンメルはすごい田舎ですが、そこに世界中の高校生が集まりました。そこでの経験というか得たものを、千曲市と絡めて語るのはいかにいいかなと思います。

皆川：いままさに常木さんがおっしゃった「人とのつながり」というのは私も強く感じます。リレハンメルでやった大会はもう10年ぐらい前のことですが、参加した仲間は、国は違えど、いまでも誕生日のメッセージ交換などでつながっています。あの頃はみんな高校生で、将来お医者さんになりたいとか夢を語り合ったのですが、それが実現したという報告を受けたり、いまでも刺激をもらっています。ユースフォーラムではいろんなことをしましたが、いろんな国の人と繋がるきっかけは、オープニングやクロージングのセレモニーで、音楽やスポーツと一緒に楽しむ場面がきっかけです。そういうのが千曲でもできるとよいと思います。高校生が自発的に交流



を持つことってなかなかできないと思うので、大人が手助けして交流のきっかけを作ってあげることがすごく良いと思います。

中塚：ありがとうございます。そろそろ終わりの時間が近づいてきていますが、こちらの会場にメディアの立場で、ちくま未来新聞の白石さんがいらっやいます。ここまでのところでの感想なり、今後への展望などをお聞かせいただけないでしょうか。

白石：ちくま未来新聞と申します。千曲市と坂城町で発行している無料の新聞です。新聞の中ではスポーツ記事も多く取り上げていますし、昨日ありましたFリーグのポアルース長野の試合も取材させていただきました。スポーツで温泉街を盛り上げようということでお話を伺ってまいりましたが、上山田温泉街とスポーツ振興をうまく結びつければ地域の活性化に繋がるし、観光的にも非常に大きな力があると思います。フットサル自体を千曲市で普及していくことで少しでもお役に立てればと思っています。ポアルースさんも非常に頑張って、千曲市内でPRされています。先ほど岡田前市長からお話がありましたが、ホワイトリングでやっていた試合を千曲市に移してきています。今シーズンのFリーグはことぶきアリーナの開催が多いんです。昨日の名古屋オーシャンズとの試合では、負けてしまいましたが非常によい試合でした。たくさんの方に千曲市にお越しいただければと思います。

先ほどお話がありましたバスケットの信州プレイブウォリアーズも、最初bjリーグのころはそれほどお客さんはいませんでした。戸倉の小さな体育館から始まって。それがいまやB1に上がり、3,000人は入るようになりました。Fリーグの方もポテンシャルがあると思います。「ことぶきと言えばポアルース」「千曲市と言えばフットサル」と盛り上がっていくために、私の方でも新聞でPRさせていただき、少しでもお役に立てればなと思います。

5. おわりにー登壇者より

中塚：ありがとうございます。終了予定の5時に近づいてまいりました。登壇者としてお話して下さった本多さん、福角さん、岡田さんから一言ずついただいて締めたいと思います。

本多：「高校野球は甲子園」のように、「U-18 フットサルは千曲市」と言ってもらえるような大会にしていきたいと思いますので、引き続きよろしくお祈いします。本日はありがとうございました。

福角：私は高校の次の年齢、大学というカテゴリーで活動しています。このU-18大会が盛り上がることで、次の展開にいく人材も現れるでしょうし、何より人と人の繋がり、文化を知ることがスポーツの良さでもあると思います。長く続く大会になればいいと思います。年明けの大会にも視察させていただきまます。その時はよろしくお祈いします。ありがとうございました。

岡田：皆さんお疲れさまでした。こういった会議を千曲市でやっていただき、本当に感謝しています。皆さんの意見を聞いていると、この素晴らしい泉質の温泉街に、多くのスポーツ選手に来ていただけることが本当にうれしいなと思ってますし、そういう環境を私たちも作ってかなきゃいけないと思います。先ほど清水さんからいい話をいただきました。人があたたかかっていうのは最大の財産です。そこに温泉とスポーツをプラスしていけば、この地域は必ず発展すると思います。これからも皆様の力で、元気になれるようにがんばってきたいと思っております。ありがとうございました。

中塚：会場の皆さん本当にありがとうございました。そしてオンラインでご参加くださった全国の皆さん、本当にありがとうございました。なかなかそちらへ振ることができなかったのですが、おそらく全国で聞いておられる方も、うちの地域でもできるんじゃないかと思ってもらえるようなことがいっぱいあったのではないかと思います。

全国それぞれ、抱えている事情は異なりますが、お互い手を取り合って情報交換しながら、地方から盛り上げていければよいですね。やはり財産は人だと思っています。このあと残れる方はこの場に残り、人と人の交流をより深める時間にできればと思います。

本当にありがとうございました。また1月に会いできるのを楽しみにしております。

以上

#フットサル

#千曲市

#温泉街

U-18

フットサルリーグチャンピオンズカップ

オープニングサロン @ 千曲

温泉街をスポーツで

盛り上げよう!

オンライン
同時開催

U-18 フットサルと、その大会を受け入れる千曲市のそれぞれの魅力、コロナ禍でみえてきた新たな課題と可能性を語り合うシンポジウムを開催。信州千曲観光局の畳の座敷を会場に、全国各地とオンラインでつなぎます。

参加費
無料

#高校生
#地方創生

2022年

11月13日(日)

開始 14:30-17:00

受付開始 14:00

懇親会 / オンライン懇親会 17:00-19:00

千曲市総合観光会館和室
コワーキングスペース Gorori

会場住所 千曲市上山田温泉 2-12-10

オンラインでも参加できます

(参加申込された方に Zoom の URL をお送りします)

参加申込

右記QRコードまたはサロン 2002 サイトからお申し込みください。

www.salon2002.net

QRコードからの申込ができない場合は、
信州千曲観光局に FAX で氏名、連絡先をお送りください。

FAX 026-261-0350

【お問合せ】 TEL 026-261-0300

申込専用



スピーカー

ビデオメッセージ 小川 修一 (千曲市長)

コーディネーター 中塚 義実 (NPO サロン 2002 理事長 / 筑波大学附属高校教諭)

岡田 昭雄 (前千曲市長)……………『千曲市の魅力と U-18FLCC のはじまり』

本多 克己 (NPO サロン 2002 副理事長)…『第 7 回 U-18FLCC と地域リーグの現状』

福角 有紘 (多摩大学フットサル部監督)…『世界とつながる U-18 フットサル』

上山田温泉の皆さん、全国の U-18 フットサルリーグ関係者の皆さん

U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップとは

NPO サロン 2002 が主催する高校生年代の全国大会です。第 3 回大会から長野県千曲市で開催し、第 7 回大会が 2023 年 1 月 7 ~ 8 日に予定されています。出場チームは、全国 16 地域で行われる、U-18 フットサルリーグのチャンピオンです。コロナ禍のこの 3 年、各地域のリーグ戦と千曲市での本大会の開催は大変難しい状況でしたが、「新たな様式」で続けられたのは、U-18 フットサル関係者の熱意と、地元の皆様のご理解、ご協力のたまものです。

スポーツくじ
BIG
スポーツ振興くじ助成事業

SALON2002

主催：特定非営利活動法人サロン 2002
後援：長野県、長野県教育委員会、千曲市、(一社)信州千曲観光局、戸倉上山田温泉旅館組合連合会、(一社)長野県サッカー協会、長野県フットサル連盟、千曲市サッカー協会、ポアールス長野 (予定: 申請中含む)
協賛：多摩大学ほか (予定)

千曲市の皆さんは、U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップがどのような大会なのかをご存じでしょうか。そもそもフットサルというスポーツ、U-18（高校生）年代の抱える課題と可能性をどのように感じておられるでしょう。

一方、U-18 フットサルに取り組む皆さんは、長野県千曲市の魅力と、コロナ禍でみえた可能性と課題をどのように感じておられるでしょう。千曲市ではいま、自然豊かな温泉街としてだけでなく、ワーケーションによる地域振興も進められています。地方が活性化するための「新たな様式」と言えるかもしれません。

晝の座敷が会場で、全国各地とオンラインでつないで開催します。多くの方と語り合えることを楽しみにしています。

特定非営利活動法人サロン 2002

理事長 中塚 義実

特定非営利活動法人サロン 2002 とは

特定非営利活動法人サロン 2002 は、スポーツを通しての“ゆたかなくらしづくり”を“志”とする NPO です。

この NPO が運営するサロン 2002 ファミリーは、全国各地にいる約 100 名の“同志”です。学校関係者、スポーツの指導者・研究者、メディアとして関わる人、クラブ運営に携わる人、フットサルや草サッカーなど生涯スポーツのプレーヤー、サポーターやボランティア、スポーツ行政に携わる自治体関係者、競技団体関係者、医者や弁護士、アーティストなど多種多様です。さまざまな角度からスポーツをはじめとする“遊び”に携わり、“志”の実現を目指して活動する人で構成されるネットワークです。

NPO サロン2002 の主たる活動は、1997 年度よりほぼ毎月行われる月例サロンの開催と、その内容を軸とするホームページの運営です。2020 年度から月例サロンはすべてオンライン開催となりましたが、徐々に対面との併用を志向しています。今年度のメインテーマは「ユースリーグ」と「スポーツとアート」。いずれも＜徹底的に遊ぶとはどういうことか＞が中心的なテーマです。

公開シンポジウムは 2001 年度よりほぼ毎年行われ、人と情報の行き交う場として定着しています。今回は、NPO サロン 2002 の主催事業「U-18 フットサルリーグチャンピオンズカップ」を取り上げ、信州千曲市の方々との交流を意図して企画されました。

詳細はホームページをご覧ください。

<http://www.salon2002.net>



<サロン 2002 公開シンポジウム>

- 2001 年度…FIFA コンフェデレーションズカップ
総括
- 2002 年度…FIFA ワールドカップ総括
- 2003 年度…地域で育てるこれからのスポーツ環境
- 2004 年度…t o t oを活かそう！
- 2005 年度…クラマーさん、ありがとう！
- 2006 年度…2006 年ドイツで感じたこと
- 2007 年度…サッカー観戦を楽しもう！
－スタジアム編
- 2008 年度…地域からみた Jリーグ百年構想
- 2009 年度…2019 年ラグビーワールドカップを
語ろう！
- 2010 年度…育成期のサッカーを語ろう！
- 2011 年度…高校サッカー 90 年史を語ろう！
- 2012 年度…U-18 フットサルを語ろう！
- 2013 年度…スポーツクラブの法人化を語ろう！
- 2015 年度…スポーツで“ゆたかなくらし”を！
- 2016 年度…日本サッカーのルーツを語ろう！
- 2017 年度…Before2002,After2020
－サロン 20 周年記念
- 2018 年度…部活動を語ろう！
- 2019 年度…ラグビーワールドカップ 2019 を
語ろう！
- 2020 年度…「With/After コロナ」の時代に向けて
- 2021 年度…①安心・安全なサッカーを目指して
②JFA100 周年 2021 年の総括と展望
- 2022 年度…①U-18FLCC オープニングサロン
@ 千曲
②スポーツとアート @ 神戸